

令和7年度

評価・評定の資料

～各教科のシラバス・年間指導計画～

1年

中央区立銀座中学校

教 科	国 語	学 年	1 年	文責：前村 泉希
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

国語の諸活動として、長い文章や複数の文章、タブレット上の文章に対する読解力を身に付け、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を図り、その能力の獲得や定着を図っていく。また、古典や言語知識・文法の学習を重視し、日本の伝統文化や日本語に興味、関心を持って取り組める姿勢の育成を目指していく。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書：国語1（光村図書）
 副教材：新・国語の便覧（正進社3年間）よくわかる国語の学習1年（明治図書） 10問漢字1（浜島書店）
 国語の積み上げ1（明治図書）つまづかない！文法の学習
 使用教室：各教室・4階国語教室 指導形態：一斉授業・TT授業

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	◇定期考査 ◇漢字テスト ◇宿題・ノート等の提出物 ◇書写作品等の提出物 ◇調べ学習等の課題 ◇文法テスト
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	◇定期考査 ◇スピーチ ◇聞き取りテスト・ディベート ◇授業態度（発言を含む） ◇提出物の内容
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考え深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。	◇授業へ積極的に取り組む態度（発言内容や話し合い活動、発言等） ◇授業のふり返り ◇調べ学習等の課題 ◇宿題・ノート等の提出物

【授業の進め方と学習のポイント】

- 毎回の授業で行う漢字練習に積極的に取り組むこと。
- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、自分の考えを持つこと。
- 発言や発表に進んで参加すること。
- 提出物は期限を守って提出すること。
- 定期考査の前には、教科書を繰り返し読むことを基本として、自分のノートを照らし合わせ、授業の流れを確認する学習を行う。ワーク等、問題集を繰り返し学習する。

【家庭学習の進め方】

- ① 授業で習ったことをしっかり復習する。
- ② 予習は、教科書を読んだり、ワークをやってみたりする。ワークの問題は、答えが理解できるまで解説をしっかりと読む。
- ③ 社会的な事象に興味を持ち、その中で持続可能な開発ゴールを考えること。
- ④ 積極的に読書をする。また、資料やネット売買契約の同意書に目を通す練習をすると力がつく。新聞のコラムなどを読むことからはじめ、それが定着したら、そのコラムに対して、自分の考えをまとめ、短作文を書く練習をするとさらによい。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知 技	思 判 表	人 間 性
学習 の 基 盤	言 語 能 力		○	
	情 報 活 用 能 力			
	問 題 発 見 ・ 解 決 能 力			

単 元 名	少年の日の思い出
実 施 月	1 月
実施学年	1 年
授 業 者	前村 泉希
内 容	場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを読み取る。

【年間指導計画（国語140時間）】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	《1》 学びをひらく 「朝のリレー」	詩を朗読し情景をとらえる 朗読の練習・発表 行動描写から心情をとらえる 漢字の成り立ち・部首	作品を読み気に入った詩を選び、工夫しながら朗読して読む。 人物の心情を考え、変化をとらえる。 漢字に興味を持って取り組む。
5	「はじまりの風」 「漢字1 言葉1」 《2》新しい視点で 「ダイコンは大きな根？」 「ちょっと立ち止まって」 「情報を集めよう」 「情報を読み取ろう」 「情報を引用しよう」	論理の展開 文章と図表を結びつけて読む 自分の興味のある事柄について情報を収集し、発表する	段落の役割に着目して、文章の内容を捉える。 文章と図の関連や段落と段落の役割を考えて読む。 目的に応じた情報の集め方を知る。 必要な情報を取捨選択する。
6	《6》いにしえの心にふれる 「いろは歌」	暗唱・現代語訳	音読し、口語訳と比べ読みする。 歴史的仮名遣いに注意して読む。
7	《3》言葉に立ち止まる 「空の詩 三編」 「比喻で広がる言葉の世界」	表現技法 言葉の感性を磨く	詩に親しみ、詩の表現について理解する。 観点を立てて言葉を集め、表現する。 構成や事例の述べ方について理解する 言葉の単位について理解する。 さまざまな作品を読み、ものの見方や考え方を広げる。
9	《4》心の動き 「大人になれなかった弟たちに……」 「星の花が降るころに」 「聞き上手になろう」	描写に着目することで、どんなことが読み取れたか、自分の言葉でまとめる	根拠を明らかにし、自分の意見を伝える。 情景や心情の変化を読み取る。作者の思いをとらえる。
10	◎書く 「項目を立てて書こう」 《5》筋道を立てて 「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」	読み取ったこと踏まえ、この後の作品の展開について考える わかりやすい案内文を作成する	登場人物の行動や情景描写を読み取る。
11	《6》いにしえの心にふれる 「蓬萊の玉の枝」 「今に生きる言葉」	文章構成・展開 事実と根拠の構成	伝える事柄、目的、相手に応じた情報の整理の仕方を身につける。 文章を読み、目的に応じて要約をしたり要旨をとらえたりする。
12	「書き初め」	古文の表現 言語文化 人物の関係 自分の考えを持つ 毛筆による字形・構成	古典文学に対する興味を深める。
1	《7》価値を見いだす 「『不便』の価値を見つめ直す」 「話題や展開を捉えて話し合おう」 《8》自分を見つめる 「少年の日の思い出」 学習基盤	比較・分類・関連付け 語感・語彙 人物像の変化 情景描写	文章を読み、目的に応じて要約をしたり要旨をとらえたりする。 不便について、話し合いを通して自分の考えを広げる。
2	「二十歳になった日」 「ぼくがここに」 一年間の学びを振り返ろう	語感・語彙 結びつけて読む 構成の工夫・描写の工夫	場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりを読み取る。作品について自分の考えを持ち、ディベートを行う。 筆者の思いや考えについて話し合う。 体験を元に随筆を書く。 1年の学習を振り返る。 要点をフリップにまとめ、発表する。
3			

教 科	社 会	学 年	1 年	文責：浅野 泰正
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

【使用教材】

- 地理：教科書（帝国書院）・地図帳（帝国書院）・ワーク（明治図書、冊子で配付）
 ○歴史：教科書（東京書籍）・ワーク（明治図書、冊子で配付）
 ○共通：電子資料集 TAGLOT（正進社）・中央区社会科副読本「伝統と文化の街」

【使用教室】各教室・社会科教室

【指導形態】年間 105 時間を、おおむね 60 時間を地理、45 時間を歴史に分ける。グループワーク。

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・小テスト（長期休業後） ・単元のまとめプリント ・定期考査
思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	・小テスト（長期休業後） ・単元のまとめプリント ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。また深い学びを通して、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さを自覚する。	・小テスト（長期休業後） ・単元のまとめプリント ・定期考査 ・授業プリント (考査前を中心に回収)

【授業の進め方と学習のポイント】

【授業の進め方】

- ①「講義→グループワーク（基礎的な発問）→共有→グループワーク（発展的な発問）→まとめ」です。
- ②授業は受け身でなく、問いかけに反応したり、発言や、話し合いなど積極的に参加しましょう
- ③余白に「気になったこと」や「考えたこと」「調べたこと」をたくさんメモしましょう。
- ④分からないことは、質問したり自分で調べましょう（分からないままにしないようにしましょう）。
- ⑤提出物については提出・未提出だけでなく、内容を評価するので、ていねいにやること。

【家庭学習の進め】

- ①「食べ物」など、自分の興味と結びつけて覚える。
- ②『NHK for School』などの、視聴覚教材をたくさん視聴する（様々な感覚を使う）。
- ③毎日 5～10 分程度で授業の復習をする。
→ワークの問題を解くだけでなく、「答えの語句から。問題文を言えるようにする」など、教材を最大限活用する。また、わからない語句を調べたり、学習した語句をもう一度ノートに書く。
- ④年表や地図を、部屋のドアなど普段見る場所に貼り、見る習慣をつける。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つのマトリックス		資質・能力			単元名	3章 世界の諸地域 3節 アフリカ州
		知・技	思・判・表	人間性	実施月	10月
学習の基盤	言語能力	1	2	3	実施学年	1年
	情報活用能力	4	5	6	授業者	浅野 泰正
	問題発見・解決能力	7	8	9	内容	「アフリカ州の課題と改善策」について、歴史的要因や地理的要因を考え、意欲的に追究する。

【年間指導計画（地理的分野：年間 6 5 時間）】

月	時間	単元名	主に学習に関すること	学習のねらい
4	6	第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿	(授業の約束事等) ◇地球のすがた・地球儀と世界地図・世界の国々と地域区分	(1年間の学習方法を知る) ◇世界を地理的に認識するための座標軸として、地球儀や世界地図を活用して、大陸と海洋の形状や分布を取り上げ、地球規模での位置関係をとらえるための知識と技能を身に付ける。
5	9	第2章 日本の姿	◇日本の位置と領域・時差・都道府県の区分	◇日本の国土の位置及び領域の特色と変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観する。
6	8	第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境	◇寒い地域・温暖な地域・山・低い土地などの生活・宗教	◇地域で異なる自然環境の違いを写真や映像資料、雨温図、統計資料からとらえる。
7	4	地域調査の手法	◇地形図の読図や地域調査の手法	◇地形図の読図を通して、地域的特色を理解する。
9 10	14	第2章 世界の諸地域 1節 アジア州	◇強まるアジアとの結びつき	◇「経済の成長」における発展と課題の改善について、追究する。
11	5	2節 ヨーロッパ州	◇急速な都市の成長と変化	◇「国家間の統合による変化」を学習し、その、長所と課題を追究する。
12	5	3節 アフリカ州 学習基盤 A	◇国どうしの統合による変化	◇「特定の生産品に頼る生活からの変化」による発展と課題の改善について、意欲的に追究する。
1	5	4節 北アメリカ州	◇特定の生産品にたよる生活からの変化	◇「アメリカ合衆国を中心とした産業の発達」の影響と課題の改善について、意欲的に追究する
2	5	5節 南アメリカ州	◇盛んな農業や工業の特色	◇「開発の進展と環境問題」について、歴史的要因や地理的要因を考え、意欲的に追究する。
3	4	6節 オセアニア州	◇開発の進展と環境問題	◇「アジア州との結び付き」について、その理由や長所を学習し、意欲的に追究する

【年間指導計画（歴史的分野：年間 4 0 時間）】

月	時間	単元名	主に学習に関すること	学習のねらい
4	2	1章 歴史へのとびら 1節 歴史をとらえる見方・考え方	(授業の約束事等) ◇地球のすがた・地球儀と世界地図・世界の国々と地域区分	(1年間の学習方法を知る) ◇世界を地理的に認識するための座標軸として、地球儀や世界地図を活用して、大陸と海洋の形状や分布を取り上げ、地球規模での位置関係をとらえるための知識と技能を身に付ける。
5	4	2章 古代までの日本 1節 世界の古代文明	◇人類の出現と進化	◇日本の成り立ちはじまりに関心を持つ

6	5	と宗教のおこり	◇古代文明のおこりと発展 ◇中国文明の発展 ◇ギリシャ・ローマの文明 ◇宗教のおこりと三大宗教	◇縄文・弥生時代のくらしの変化をつかむ ◇日本の統一国家が生まれた経過を整理して考える ◇調べ学習の方法を学び、中央区をテーマとして調べる
7 8	4	2節 日本列島の誕生と大陸との交流 2節 身近な地域の歴史	◇日本列島の誕生と縄文文化 ◇弥文生文化と邪馬台国 ◇大王の時代 ◇実際に身近な地域を調べる →夏休みの宿題とし、9月に発表する	◇日本の成り立ちはじまりに関心を持つ ◇縄文・弥生時代のくらしの変化をつかむ ◇日本の統一国家が生まれた経過を整理して考える ◇調べ学習の方法を学び、中央区をテーマとして調べる
9 10	10	3節 古代国家の歩みと東アジア世界 学習基盤B	◇聖徳太子の政治改革 ◇大化の改新 ◇律令国家の成立と平城京 ◇奈良時代の人々のくらし ◇天平文化 ◇平安京と東アジアの変化 ◇摂関政治と文化の国風化 →身近な地域調べの発表を合わせて行う	◇朝鮮・中国との交流の歴史を学ぶとともに、渡来人の文化の影響を考える ◇律令制度によって成立した古代国家のようすをつかむ ◇朝廷の政治と地方の支配・藤原氏の栄華を多面的にとらえる仏教と文化の特色を理解する
11 12	5 5	3章 中世の日本 1節 武士の政権の成立	◇武士の成長 ◇武家の政権の成立 ◇鎌倉幕府の成立と執権政治 ◇武士と民衆の生活 ◇鎌倉時代の文化と宗教	◇武士のおこりから武家政権の確立を通して封建制度のしくみを理解する ◇執権政治の進展と武家政権の強化を理解する ◇仏教と文化の特色を理解する
1 2 3	8	2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	◇モンゴルの襲来と日本 ◇南北朝の動乱と室町幕府 ◇東アジアのとの交流 ◇産業の発達と民衆の生活 ◇応仁の乱と戦国大名 ◇室町文化とその広がり	◇モンゴルの襲来のもつ歴史的意義をとらえる ◇南北朝の内乱をへて、守護大名が力をつけた理由をつかむ ◇民衆が成長していくし過程を理解する ◇仏教と文化の特色を理解する

教 科	数 学	学 年	1 年	文責：佐藤 朔
-----	-----	-----	-----	---------

【教科の目標】

- ① 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いた式と一元一次方程式などについての基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を培う。
- ② 平面図形や空間図形についての基礎的な概念や原理を理解するとともに、観察、操作や実験などの活動を通して図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。
- ③ 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに、関数関係をみいだしその特徴を表、式、グラフなどで表現し考察する力を養う。
- ④ 目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を批判的に読み取る能力を培う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書：東京書籍	副教材：基礎からの問題集（東京書籍）
使用教室：教室・数学教室・少人数教室	授業形態：一斉授業、少人数指導、TT授業

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	定期考査・単元テスト・中テストなど
思考力・判断力・表現力等	・数の性質や計算について考察する力、図形の性質や関係を直感的に捉え論理的に考察する力、数学的な表現を用いて批判的に考察して判断したり考察したりする力を身に付けている。	定期考査・単元テスト・中テストなど
主体的に学習に取り組む態度	・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。	授業へ積極的に取り組む態度（発言内容や話し合い活動、発表等） ・週末課題・問題集・テストの解き直し・テストの振り返り など

【授業の進め方と学習のポイント】

- 考え方を理解するだけでなく、手を動かして計算することが大切であることを理解すること。
- 計算の過程（途中式）を大切にし、他者に伝える記述を意識すること。
- 解けた喜びを感じるようにすること。
- 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを守ること。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、説明をよく聞き大切なポイントはメモすること。

【家庭学習の進め方】

- ① とにかく一番大切なことは、学校の1時間1時間の授業を大切に聞くこと。書く前に説明をよく聞き、頭に入ったことをノートに写すこと。
- ② 問題を解いて間違えたら、消さないで新たに書き換えること。どんな間違いをしたか明らかにすること。
- ③ また、理解できなかったことは早めに授業者に聞くこと。
- ④ 家に帰ったらまずすることは、教科書やノートを見直すこと。復習の徹底。とくに、解けなかった問題は式を1行ずつ確認しながら解き直すこと。毎日5分でもよいので繰り返すこと。
- ⑤ 提出物については提出・未提出だけでなく、途中式等の内容を評価するので、丁寧に取り組むこと。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つのマトリックス		資質・能力		
		知・技	思・判・表	人間性
学習の基盤	言語能力	1	2	3
	情報活用能力	4	5	6
	問題発見・解決能力	7	⑧	9

単元名	3章 未知の数の求め方を考えよう
実施月	1月
実施学年	1年
授業者	佐藤 朔
内容	身近な事象で数量が求まる問題を発見し、それを方程式に表して解き、問題解決する。

<数量分野>

月	単 元 名	主に学習すること	学習のねらい
4月・5月・6月・7月	4 ④ 0章 算数から数学へ (1)整数の性質 25 1章 数の世界を広げよう [正負の数] ④ (1)正負の数 ⑧ (2)加法と減法 ⑩ (3)乗法と除法 ② (4)正負の数の利用 ① 章の問題	○約数・倍数・自然数 ○素数・素因数分解 ○符号のついた数 ○数の大小 ○加法 ○減法 ○加法と減法の混じった計算 ○乗法 ○除法 ○四則の混じった計算 ○数の範囲と四則	○素因数分解をすることができる。 ○正負の数の必要性和意味を理解する。 ○反対の性質をもつ量を、正負の数を用いて表すことができる。 ○正負の数の大小関係を、不等号を用いて表すことができる。 ○絶対値の意味を理解することができる。 ○正負の数の加法・減法の計算ができる。 ○正負の数の乗法・除法の計算ができる。 ○いくつかの数の乗法を工夫して計算できる。 ○正負の数の累乗の計算ができる。 ○正負の数の四則の混じった計算や分配法則を利用した計算ができる。 ○数の範囲と四則計算の可能性について調べ、その関係を考えることができる。 ○正負の数を利用して、平均値を工夫して求めることができる。 ○身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。
9月・10月・11月	18 2章 数学のことばを身につけよう [文字と式] ⑧ (1)文字を使った式 ⑥ (2)文字式の計算 ③ (3)文字式の利用 ① 章の問題	○文字の使用 ○文字を使った式の表し方 ○代入と式の値 ○1次式の計算 ○数量の表し方 ○関係の表し方	○文字を使うことの必要性和意味を理解する。 ○数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○文字式の積の表し方、累乗や商の表し方にしたがって、式を表すことができる。 ○文字に数を代入して式の値を求められる。 ○1次式のいろいろな計算ができる。 ○文字を使って、図形の面積や体積を表すことができる。 ○いろいろな数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○等式や不等式の意味を理解し、数量間の関係を表すことができる。
12月・1月	14 3章 未知の数の求め方を考えよう [方程式] ⑦ (1)方程式とその解き方 ⑥ (2)1次方程式の利用 学習基盤 ① 章の問題	○方程式とその解 ○方程式の解き方 ○いろいろな方程式 ○1次方程式の利用 ○比例式の利用	○文字に値を代入して、方程式の解を求めることができる。 ○等式の性質を使って、方程式を解くことができる。 ○移項を使って、方程式を解くことができる。 ○いろいろな方程式を解くことができる。 ○具体的な問題を、方程式を使って解決することができる。 ○比例式の性質を利用して文字の値を求めることができる。
2月・3月	9 7章 データを活用して判断しよう [データの分析と活用] ⑤ (2)データの活用 ③ (3)ことがらの起こりやすさ ① 章の問題	○範囲と代表値	○目的に応じて資料を分析し、説明できる。

<図形分野>

月	単 元 名	主に学習すること	学習のねらい
4月・5月・6月	17 5章 平面図形の見方をひろげよう [平面図形] ⑥ (1)図形の移動 ⑧ (2)基本の作図 ② (3)おうぎ形 ① 章の問題	○図形の移動 ○作図のしかた ○基本の作図 ○いろいろな作図 ○おうぎ形	○平行移動, 回転移動, 対称移動などを理解する。 ○直線や線分の意味を知り、角や平行などを、記号を使って表すことができる。 ○弧や弦の意味や表し方を理解する。 ○定規やコンパスを使って基本的な作図ができる。また、基本的な作図を利用して、円の接線などいろいろな図を書くことができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角を求めることができる。
7月・9月・10月	18 6章 立体の見方をひろげよう [空間図形] ③ (1)いろいろな立体 ⑨ (2)立体の見方と調べ方 ⑤ (3)立体の体積と表面積 ① 章の問題	○いろいろな立体 ○直線や平面の位置関係 ○面の動き ○立体の展開図 ○立体の投影図 ○体積 ○表面積 ○球の体積と表面積	○多面体や正多面体の意味や特徴を理解する。 ○空間内にある平面が1つに決まる条件を理解する。 ○直線と直線、平面と直線、平面と平面の位置関係を理解する。 ○平面図形の移動によってできた立体について理解する。 ○角柱、円柱、角錐、円錐に展開図とその特徴について理解する。 ○円錐の側面になるおうぎ形の中心角を求めることができる。 ○投影図の意味を理解し、投影図から立体を読み取ることができる。 ○立体の体積や表面積が求めることができる。 ○球の体積や表面積が求めることができる。
11月・12月・1月	22 4章 数量の関係を調べて問題解決しよう [比例と反比例] ⑤ (1)関数と比例・反比例 ⑦ (2)比例の性質と調べ方 ⑥ (3)反比例の性質と調べ方 ③ (4)比例と反比例の利用 ① 章の問題	○関数 ○比例する量 ○比例のグラフ ○比例の表, 式, グラフ ○反比例する量 ○反比例のグラフ ○反比例の表, 式, グラフ ○比例と反比例の利用	○関数の意味を理解する。 ○変域を、不等号を使って表すことができる。 ○ともなって変わる2つの数量の関係を、表や式に表すことができる。 ○比例の関係を式に表すことができる。 ○座標の表し方を知る。 ○比例のグラフをかくことができる。 ○比例のグラフから式を求めることができる。 ○反比例の式を求めることができる。 ○反比例のグラフをかくことができる。 ○反比例のグラフから式を求められる。 ○比例や反比例を利用して、身近な問題を解決することができる。
2月・3月	5 7章 データを活用して判断しよう [データの分析と活用] ⑤ (1)データの整理の特徴	○度数の分布 ○累積度数 ○累積相対度数 ○範囲と代表値	○度数分布表などの意味を理解する。 ○資料を度数分布表に整理することができる。 ○相対度数を求めて、資料の傾向を読み取ることができる。 ○ある階級までの全体に対する割合を求めることができる。 ○階級や範囲、代表値などの用語の意味を理解する。
	8 まとめ ⑧	○1年間のまとめ	○1年次の学習内容を理解している。

教 科	理 科	学 年	1 年	文責：佐藤 允彦
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書（東京書籍）、理科の自主学习（新学社）、基礎徹底64（新学社）
教室と理科室、一斉授業

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	ワーク・小テスト・定期考査 実験レポート・ワークシート ノート・パフォーマンステストなど
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	発言・小テスト・定期考査 実験レポート・ワークシート ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	授業態度・発言・小テスト ワークシート、ノートなど

【授業の進め方と学習のポイント】

- 復習問題（基礎徹底64）で、自分が理解していないところを復習しよう。
- 授業のポイントをしっかり抑えよう。
- 観察・実験の目的をしっかりと意識して観察・実験を行おう。
- 観察・実験を行うときは、観察・実験の手順を予習しておきましょう。スムーズに観察・実験ができます。

【家庭学習のすすめ】

- 学習した単元項目を確認し、復習問題（基礎徹底64）で、自分が理解していないところを覚える。
- 理科の自主学习などの問題を解いて、学習が定着できるようにする。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知 技	思 判 表	人 間 性
学習 の 基盤	言 語 能 力			
	情 報 活 用 能 力		○	
	問題発見・解決能力			

【授業計画】

単 元 名	第1章 生物の観察と 分類の仕方
実 施 月	5月
実施学年	1年
授 業 者	佐藤 允彦
内 容	生物の分類の仕方を思考し、 それをもとに生物を分類する。

年間指導計画【生物・化学・物理分野（70 時間）佐藤担当】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	⑥ 単元 1 いろいろな生物とその共通点 1 章 生物の観察と分類のしかた	○身近な生物の観察 ○生物の特徴と分類 学習基盤	・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類のしかたについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。
	⑩ 2 章 植物の分類	○身近な植物の分類 ○果実をつくる花のつくり ○裸子植物と被子植物 ○花をさかせず種子をつくらない植物 ○さまざまな植物の分類	・植物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。 ・進んでかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う
	⑦ 3 章 動物の分類	○身近な動物の分類 ○セキツイ動物 ○無セキツイ動物 ○動物の分類表の作成	・いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、動物のからだの共通点と相違点を理解する。 ・身近な動物についての観察、実験などを通して、いろいろな動物の共通点や相違点を見いだすとともに、動物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。 ・動物のからだの共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。
	① 単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	
7 ・ 9 ・ 10 ・ 11	⑧ 単元 2 身のまわりの物質 1 章 身のまわりの物質とその性質	○物の調べ方 ○金属と非金属 ○さまざまな金属の見分け方 ○白い粉末の見分け方	・身のまわりの物質をさまざまな方法で調べる実験を通して、物質には密度や加熱したときの变化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身につける。
	④ 2 章 気体の性質	○身のまわりの気体の性質 ○気体の性質と集め方	・気体を発生させてその性質を調べる実験を通して、気体の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。
	⑥ 3 章 水溶液の性質	○物質が水にとけるようす ○溶解度と再結晶	・水溶液から溶質を取り出す実験を通して、その結果を溶解度と関連づけて理解する ・水溶液に関する事物・現象に進んでかわり、科学的に探究する態度を養う。
	⑥ 4 章 物質の姿と状態変化	○物質の状態変化 ○物質の状態変化と体積・質量の変化 ○状態変化が起こるときの温度と蒸留	・物質の状態変化についての観察、実験を通して、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解する。また、物質は融点や沸点をさかいいに状態が変化することを知るとともに、混合物を加熱する実験を通して、沸点のちがいで物質の分離ができることを見いだして理解する。
	① 単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	
12 ・ 1 ・ 2	⑧ 単元 3 身のまわりの現象 1 章 光の世界	○物の見え方 ○光の反射 ○光の屈折 ○レンズのはたらき	・光についての観察、実験を通して、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性や、物質の位置と像の位置および像の大きさの関係を理解する。 ・音についての観察、実験を通して、音は物体が振動することによって生じ空気中などを伝わることや、音の高さや大きさは発音体の振動に関係することを理解する。
	④ 2 章 音の世界	○音の伝わり方 ○音の性質	

月	単元名		主に学習すること	学習のねらい
2 ・ 3	⑧	単元3 身のまわりの現象 3章 力の世界	○日常生活のなかの力 ○力のはかり方 ○力の表し方 ○力のつり合い	・物体に力をはたらかせる観察、実験を行い、物体に力がはたらくとその物体が変形したり動き始めたり、運動のようすが変わったりすることや、力は大きさと向きによって表されること、物体にはたらく2力のつり合う条件を理解する。
	①	単元末	学習内容の整理・確かめと応用	

年間指導計画【地学分野（35 時間）足立担当】

4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	②	単元4 大地の変化 プロローグ	○身近な地形の地層・岩石の観察	・身近な地形や地層、岩石の観察に関する事物・現象に進んでわかり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。
	⑨	1章 火をふく大地	○火山の姿からわかること ○火山がうみ出す物 ○火山の活動と火成岩 ○火山とともにくらす	・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、火山活動と火成岩、自然のめぐみと火山災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解する。 ・火山、自然のめぐみと火山災害に関する事物・現象に進んでわかり、科学的に探究しようとする態度を養う。
	⑨	2章 動き続ける大地	○地震のゆれの伝わり方 ○地震が起こるところ ○地震に備えるために	・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地震の伝わり方と地球内部のはたらき、地震災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解する。 ・地震、地震災害に関する事物・現象に進んでわかり、科学的に探究しようとする態度を養う。
	⑭	3章 地層から読み取る大地の変化	○地層のつくりとはたらき ○堆積岩 ○地層や化石からわかること ○大地の変動 ○身近な大地の歴史	・大地のなり立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地層の重なりと過去の様子について基本的な概念や原理・法則などを理解する。 ・地層の重なりと過去の様子について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見いだして表現する。
	①	単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	

教科	英語	学年	1年	文責：斉藤 千万
----	----	----	----	----------

【教科の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材：『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』（三省堂）

副教材：『JOYFUL WORKBOOK1』（新学社）、『Let's Enjoy BINGO1』（浜島書店）、
『積み上げ』（明治図書出版）、『サマースクール』（明治図書出版）、
『みんなのウィンター』（正進社）

使用教室：1年2組教室、1年3組教室、1年4組教室、1年5組教室、少人数教室

指導形態：少人数指導、必要に応じてTT指導

【評価の観点と方法】

観点	評価の規準	評価の方法
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。	・定期考査（「知識・技能」の分野） ・単元テスト（「知識・技能」の分野） ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト 等
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	・定期考査（思考・判断・表現の分野） ・単元テスト（「思考・判断・表現」の分野） ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト 等
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業観察（言語活動への取り組み・コミュニケーションの継続） ・振り返りシートの取り組み状況 ・ノートやワーク等の提出状況 ・定期考査（主体的に学習に取り組む態度の分野） ・パフォーマンステストへの取り組み状況 等

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業の基本は、「先生の話をよく聞くこと」です。授業中の集中を大切にしましょう。
- 単語や表現は「聞く」→「話す」→「読む」→「書く」の順で覚えます。始めの「聞く」を大切に、あとのステップに繋げていきましょう。
- まず覚える、覚えたら使う、使う場面を想定して学習するようにしましょう。
- わからない文法事項は、理解できるよう復習と見直しを行ないましょう。
- 授業中に使ったプリントは、きちんとファイルに保管して復習に活用できるようにしましょう。
- 授業準備、課題の提出期限をしっかりと守りましょう。

【家庭学習の進め方】

○家庭学習では、次のことをやりましょう。

- ①デジタル教科書の音声を聞きながら音読練習（目安は1ページにつき5回）
 - ②音読しながら本文をくりかえし書く練習(目安は1ページにつき2回)
 - ③単語練習(日本語を見て英語を正しく書けるようになるまで) 次の授業で単語テスト有
 - ④ワークを解く（自力で解く→教科書等を見ながら解く→答え合わせ）
 - ⑤テストの間違い直し（間違えた理由や文法事項を確認する）
- その日に習ったことを復習することや、宿題などをコツコツやりましょう。語学習得は、「1週間分をまとめて1回」ではなく、「毎日少しずつコツコツ」が大切です。
- 英単語・英熟語・英文を何度も声に出して読み、音とスペルを一致させて覚えるようにしましょう。
- 各種検定に積極的にチャレンジしよう！
- 配布されたプリントはファイルに入れて、学習に生かしましょう。
- 提出物は提出期限を必ず守りましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つのマトリックスの整理		資質・能力		
		知・技	思・判・表	学びに向かう力
学習の基盤	言語活用能力		○	
	情報活用能力			
	問題発見力・解決力			

【授業計画】

単元名	Take Action! Read 1 町の案内図
実施月	7月
実施学年	1年
授業者	斉藤 千万
内容	町の案内図を読み取り、相手が必要とする情報を整理し、提案する。

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	Starter 1 好きなものを教えて！ Starter 2 好きなキャラクターは？ Starter 3 ランキングを作ろう！ Starter 4 どこに行ってみたい？ Starter 5 英語の音と文字を確認しよう！ Starter 6 単語や文の書き方を確認しよう！ My Dictionary	簡単な語句や表現 簡単な語句や表現 簡単な語句や表現 簡単な語句や表現 アルファベット アルファベット 小学校で学んだ語句や表現	- 好きな教科や食べ物について、聞いたり話したりする。 - 好きなキャラクターや人物について、聞いたり話したりする。 - 放課後の過ごし方や朝食に食べるものについて、聞いたり話したりする。 - 行ってみたい国や地域について、聞いたり話したりする。 - アルファベットや簡単な語を聞いたり話したりする。 - アルファベットや簡単な語を聞いたり書いたりする。 - 教科、食べ物、スポーツ、動物、色、一日の生活などを確認する。
5	L1 About Me Words & Sounds 1 何匹見える？	be 動詞、一般動詞（1・2人称） What (...) do you ~ ? How many ...? プロフィールカードを作って交換する。	- 自己紹介カードを書く。 - 趣味や好きなことについてインタビューする。 - 放課後の過ごし方や好きなことについて、インタビューする。 - How many ...?の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
6	L2 My Hero Language Focus 1 語順、いろいろな文、名詞 Words & Sounds 2 誕生日はいつ？	助動詞 can あこがれの人物について発表する。 When is ...?	- 助動詞 can の肯定文・否定文・疑問文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 - 助動詞 can の肯定文・否定文・疑問文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、伝え合ったり、正確に書いたりする。 - When is ...?の意味や働きを理解し、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
7	L3 My Treasure Language Focus 2 be 動詞、一般動詞、Let's、命令文、can、いろいろな疑問詞 Take Action! Read 1 町の案内図 学習基盤	be 動詞 (is)、what、who、him / her 「宝物クイズ」をする。 Take Action! Listen 1 フードコードの店内放送 Take Action! Talk 2 フードコードでの注文	- be 動詞 (is) の肯定文・否定文・疑問文、What, Who や人称代名詞（目的格）を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 - be 動詞 (is) の肯定文・否定文・疑問文、What, Who や人称代名詞（目的格）を理解し、それを含む英文を即興で話したり、伝え合ったり、正確に書いたりする。 - 道に迷っている人に道案内をする。 - 町の案内図を読んで、必要な情報を捉える。
	L4 My Summer Plans Take Action! Listen 1 フードコードの店内放送 Take Action! Talk 2 フードコードでの注文	I went to [ate / saw / enjoyed -ing]、 Where do you want to go? 今年の夏休みにしたいことについて発表する。	- I went to [ate / saw / enjoyed -ing]、Where do you want to go を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 - I went to [ate / saw / enjoyed -ing]、Where do you want to go を理解し、それを含む英文を即興で話したり、伝え合ったり、正確に書いたりする。 - メニューの説明を聞いて、必要な情報を捉える。 - 店で商品を注文する。

9	Project 1 What Am I?クイズ		・3つのヒントを考え、"What Am I?"クイズをする。
	L5 Ms. Brown's Family	3人称単数現在形、Whose ...?	・3人称単数現在形、Whose ...?を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。
	Language Focus 3 3人称単数現在形、人称・人称代名詞など	好きなキャラクターについて、やり取りする。	・3人称単数現在形、Whose ...?を理解し、それを含む英文を即興で話したり、伝え合ったり、正確に書いたりする。
10	Take Action! Listen 2 競技会場の注意事項	日本で人気のあるキャラクターを紹介する。	・競技会場のアナウンスを聞いて、要点を捉える。
	Take Action! Read 2 スケート場のイベント	[説明文]	・イベントの案内を読んで、必要な情報を捉える。
	L6 School Life in the U.S.A	現在進行形、Which ...? 学校生活についてやり取りする。	・現在進行形、Which ...?を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。
11	Language Focus 4 現在進行形、冠詞	日本の学校生活や行事を紹介するメールを書く。 [説明文]	・現在進行形、Which ...?を理解し、それを含む英文を即興で話したり、伝え合ったり、正確に書いたりする。
	Take Action! Listen 3 イベントのお知らせ		・イベントの案内を聞いて、概要を捉える。
	Take Action! Talk 3 体調不良		・症状をたずねる。／対処方法を提案する。
12	L7 Athletes with Spirit	一般動詞（過去形） 雑誌記事の要点を読み取る。 [説明文]	・一般動詞（過去形）の肯定文・否定文・疑問文を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。
	Language Focus 5 いろいろな疑問文		・一般動詞（過去形）の肯定文・否定文・疑問文を理解し、それを含む英文を即興で話したり、伝え合ったり、正確に書いたりする。
	Project 2 理想のロボット選手権 Reading Lesson 1 Alice and Humpty Dumpty		・示された条件に合うロボットを考え、申し込みフォームに記入する。 ・物語を読んで、概要を捉える。
1	L8 Discover Japan	be動詞（過去形）、過去進行形、You look ...	・be動詞（過去形）、過去進行形、You look ...を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。
	Language Focus 6 過去形、過去進行形、look + A	冬休みについて、やり取りする。	・be動詞（過去形）、過去進行形、You look ...を理解し、それを含む英文を即興で話したり、伝え合ったり、正確に書いたりする。
	Take Action! Listen 4 新作映画の予告編	今年一番思い出に残ったできごとを絵日記に書く。 [物語文]	・映画の予告編を聞いて、概要を捉える。
2	Take Action! Read 3 映画のチケット		・映画館のウェブサイトを読んで、必要な情報を捉える。
	L9 Emergency Food	未来を表す表現（will / be going to ...）	・未来を表す表現（will / be going to ...）を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。
	Language Focus 7 未来を表す表現	新聞のコラムの要点を捉える。 [説明文]	・未来を表す表現（will / be going to ...）を理解し、それを含む英文を即興で話したり、伝え合ったり、正確に書いたりする。
3	Take Action! Listen 5 週末の天気予報		・天気予報を聞いて、必要な情報を捉える。
	Take Action! Talk 4 手伝いのお願い		・手伝いを依頼する。／承諾する（断る）。
	Project 3 日本の「昔話」の紙芝居 Reading Lesson 2 Sleepy Lord Thunder		・海外の子どもたちに見せるために、日本の紙芝居の動画を作る。 ・物語を読んで、概要を捉える。

教 科	音 楽	学 年	1 年	文責：中村 麻里
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

- ・仲間と協力して表現をつくりあげる音楽活動の喜びを体験することを通して、音や音楽に対する興味・関心を高める。
- ・曲想や背景、楽曲構造を理解させ、創意工夫を生かした音楽表現をさせる。
- ・多様な時代や国の音楽の学習を通して、音楽が人々の生活や文化に果たす役割について考えを深めさせる。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材：音楽の教科書（教育芸術社）、MYSONG（教育芸術社）、音楽のハーモニー（正進社）、ファイル
 使用教室：第1音楽室、第2音楽室
 指導形態：一斉指導、グループ活動

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査
思考・判断・表現	・知識・技能を生かし、音楽表現を創意工夫している。 ・音楽を自分なりに評価しながら、よさや美しさについて説明している。	・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に音楽活動に取り組み、体験を通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていくとしている。	・観察 ・ワークシート

【授業の進め方と学習のポイント】

- 音楽を聴くときは、いつも「どのような特徴があったか」、「どのような感じがしたか」を意識して聴き、言葉にして表現してみましょう。
- 音楽を表現するときは、基本的な技能の習得だけでなく、「意思の強さを伝えるために、ここははっきりと発音して歌おう」というように、曲の思いや意図を表現するために創意工夫をしよう。
- 授業では皆さんの発言を取り入れながら進めます。是非積極的に挙手して発言しましょう。また、仲間の意見もメモし、表現の幅を広げましょう。

【家庭学習の進め方】

- 教科書やワークシートを見て、授業で学習した内容を復習しましょう。
- 実技は、基本的な歌唱方法や表現の工夫を意識して練習しましょう。音程や歌詞は覚えましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身につけた生徒の育成】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知・技	思・判・表	人間性
学習 の 基盤	言 語 能 力	1	②	3
	情 報 活 用 能 力	4	5	6
	問題発見・解決能力	7	8	9

【授業計画】

単 元 名	学習発表会に向けて混声三部合唱を練習しよう
実 施 月	10月
実施学年	1年
授 業 者	中村 麻里
内 容	楽曲の特徴を理解し、今までの知識・技能を生かして表現を工夫する。

【年間指導計画（音楽）】

	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月	4	正しい発声を確認しよう。 ・音楽科のルール、合唱の基本、楽典の基礎 ・自分の声の音域決め ・「校歌」	・基礎の姿勢、表情、発声方法 ・校歌の旋律、強弱、歌詞の意味について	・音楽の基礎知識を身につけて、多様な表現に生かす。 ・歌唱の正しい姿勢と発声方法を身につける。
5月	4	旋律の特徴や曲の構成を捉えよう ・「浜辺の歌」	・音楽の要素（リズム、旋律、強弱、形式）と曲想との関わり ・歌詞の内容と音楽の特徴との関わり	・歌詞に描かれた情景は、音楽にどのように表されているか感じ取る。 ・フレーズを感じ取り、旋律の動きや強弱を生かして表現を工夫する。
6月	4	物語の進行と歌唱表現との関わりを感じ取って聴き、紹介文を書こう。 ・「魔王」	・曲の構成 ・登場人物による歌唱表現の変化 ・物語と伴奏の関わり	・声の音色や強弱の変化を知覚させ、それらが生み出す雰囲気を感じ取る。 ・物語の変化と曲想の変化との関わりを理解する。
7月				
9月	1 4	学習発表会に向けて混声三部合唱を練習しよう。 ・合唱曲 <u>学習基盤</u>	・パート練習の仕方、リーダー決め ・各声部の役割の把握 ・全体のハーモニーづくり	・リーダーを軸としたパート練習の仕方を習得する。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を創意工夫する。 ・声部の役割を理解させ、全体の響きを考えて表現する。
10月				
11月	4	日本の民謡の声の出し方や、歌い合わせ方などの特徴を理解して歌おう。 ・「ソーラン節」	・民謡の発声方法 ・囃子ことばについて ・民謡の種類やつくられた背景	・民謡の特有の発声方法を学ぶ。 ・民謡ができた背景を知り、日本の文化と音楽との関わりについて理解する。
12月	3	箏の基本的な奏法を身につけて、合わせて演奏しよう。 ・「さくらさくら」	・基本奏法（爪、姿勢とかまえ方、親指の使い方） ・基本知識（調弦法、楽器について、楽譜の読み方） ・歴史と奏法	・日本の伝統音楽に関心をもたせるとともに、日本音楽と西洋音楽の違いを理解する。 ・箏の基本的な奏法を体験する。 ・箏特有の音色や旋律を味わいながら鑑賞する。
1月	5	全体の構成を考えながらリズムアンサンブルを創ろう ・「くいしんぼうのラップ」	・音符の理解 ・リズムの重ね方による雰囲気の変化 ・構成を生かした創作	・言葉のリズムの反復や重なり方などの特徴を理解する。 ・起承転結の構成を生かして創作表現を創意工夫する。
2月				
3月	3	言葉の抑揚と旋律との関わりを生かして歌おう。 ・「赤とんぼ」	・発音、鼻濁音 ・強弱の表現方法 ・音楽の要素（強弱、速度、伴奏）と曲想の関わり	・音楽の要素を工夫することによって、曲想や雰囲気が変化することを理解する。 ・曲想に合わせた発音方法（鼻濁音等）を身につける。
	4	三送会・卒業式に向けて ・混声三部合唱 ・「蛍の光」他	・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり ・パート練習の仕方 ・楽曲の基礎知識	・声部の役割を理解し、全体の響きを感じ取って歌うようにする。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、心を込めて歌うようにする。

教 科	美術	学 年	1 年	文責：田邊 大地
-----	----	-----	-----	----------

【教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

○感じる表す美術（浜島書店） ○教科書 ○美術室 ○一斉授業 ○個別指導

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	・美術の基礎的技能を生かし、表現するための技能を新たに習得することができる。 ・日本及び諸外国の美術や美術文化を理解し国際理解を深めることができる。 ・生活や社会における美術の働きについて理解することができる。 ・制作順序など見通しをもち制作することができる。 ・用具を適切に扱うことができる。	・作品 ・ワークシート ・定期考査 ・鑑賞ワークシート ・鑑賞レポート
思考・判断・表現	・題材に応じて発想力や想像力を働かせ、問題解決への道筋を立て、表現力を働かせて解決することができる。 ・造形的な視点で見つめて、感じたことや考えたことを言葉で表現することができる。	・作品 ・ワークシート ・定期考査 ・アイディアスケッチ ・鑑賞ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	・活動に関心を持ち、授業に取り組むことができる。 ・意欲的に美術の能力を身につけようとしている。 ・提出物の提出期限を守ることができる。	・授業態度 ・ワークシート ・定期考査

【授業の進め方と学習のポイント】

○作品は制作過程も大切です。その授業ごとの目標を押さえ、達成できるよう努力しましょう。また、途中で放棄せず自分なりの完成を目指しましょう。
 ○作品は限られた時間の中で制作するので、見通しをもって計画的に進めましょう。
 ○目標に向けて構成を練り、身に付けた能力を発揮する力を身に付けようとしましょう。
 ○表現や鑑賞の基本的な知識をしっかりと学び、身に付けましょう。

【家庭学習の進め】

○日頃の生活の中で、何かを見たり聞いたり触れたりしたときに、自分なりに感じ取る感性を大切に、身の回りにあふれる色や形に関心を持ちましょう。
 ○美術館や展覧会にも積極的に行き、感性や造形的視点を磨きましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つのマトリックス		資質・能力			単元名	色の感情効果
		知・技	思・判・表	人間性	実施月	1 月
学習 の 基盤	言語能力	1	2	3	実施学年	1 年
	情報活用能力	4	5	6	授業者	田邊 大地
	問題発見・解決能力	7	8	⑨	内容	○配色によって性質や、それらが感情にもたらす効果を体験しその後の学習に活かす

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	1. オリエンテーション	○美術の授業について ○美術の授業での心構え	○美術の授業でどんな力を身につけるのか理解する。
5	1. 2. 美術のカテゴリー	○アートとデザインの違いについて	○アートとデザインの違いを学び、単元ごとに意識することの違いを学ぶ。
	2. 3. 色の整理	○色の三要素、有彩色、無彩色について	○色についての基本的な知識を学ぶ
	3. 4. 文字のデザイン	○文字の与える印象、レタリングについて	○文字が与える印象について学び、レタリングの技能を身につける。
6	4. 5. 名刺のデザイン	○文字の与える印象を使い伝えたい内容を伝えることについて	○色や形、文字を使いデザインする力を身につける。
	2. 6. 鑑賞:ポスター	○ポスターのデザインについて	○ポスターについての知識を身につける
	2. 7. ポスター制作 (15)	○ポスターを使い伝えたい内容を伝えることについて	○色や形、文字を使いポスターをデザインする力を身につける。
9	2. 8. 用と美を考えたデザイン	○美しさと使いやすさを兼ね備えたデザイン	○使いやすさと美しさを兼ね備えた色や形について学ぶ。
10	2. 9. 使用用途を考えたデザイン	○ユニバーサルデザイン 伝統工芸	○ユニバーサルデザインや伝統工芸からデザインについて学ぶ。
	10. 10. 使いやすくて美しいペーパーナイフ	○美しさと使いやすさを兼ね備えたペーパーナイフを制作する。	○使いやすさと美しさを兼ね備えたデザインについて考え、表現する力を身につける。
11	2. 11. 遠近法の仕組み	○一点通し方 空気遠近法	○遠近法の知識について学ぶ。
12	2. 12. 陰影の効果 (18)	○平面の中の立体感について	○陰影の効果の知識について学ぶ
1	2. 13. 色の感情効果	○色の与える印象について	○配色によって性質や、それらが感情にもたらす効果を体験する
2	2. 14. マークで伝える	○マークのデザインについて	○マークのデザインについての知識を身につける。
3	5. 15. ピクトグラム	○ピクトグラムを使い伝えたい内容を伝えることについて。	○ピクトグラムを使いデザインする力を身につける。
	4. 15. モダンテクニック (12)	○ドリップング、デカルコマニー マーブリング	○モダンテクニックの技法を身につける。

中央区立銀座中学校年間シラバス

教 科	保健体育科	学 年	1 年	市川 田熊
-----	-------	-----	-----	-------

【教科の目標】

体育的活動・保健の授業を通して、スポーツや体を動かす喜びを味わわせる。また身体や健康に関する知識、理解を深めさせる。本校の保健体育科で育てたい生徒像は以下の通りである。

- ◇自分で健康の保持・増進、安全に配慮できる生徒。
- ◇自分で体力づくりができる生徒。
- ◇積極的に運動に親しみ、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる生徒。
- ◇苦しさを乗り越えて問題を解決することのできる生徒。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇使用教材：保健体育教科書（東京書籍）、図解中学保健体育（あかつき）、保体資料ノート
- ◇使用教室：各教室、体育館、校庭、屋上プール、屋上運動場
- ◇指導形態：一斉授業、課題別グループ学習、習熟度別グループ学習

【評価の観点と資料】

観 点	評 価 規 準	評 価 資 料
知識・技能	・運動の合理的な実践に関して具体的な事柄や生涯に渡って運動を豊かに実践するための理論について理解している。 ・運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 ・個人生活における健康・安全について科学的に理解し、基本的な技能を身に付けている。	◇授業への参加姿勢や取り組み ◇学習カード ◇定期考査 ◇発表・発言 ◇宿題・ノート提出
思考・判断・表現	・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、それらを他者に伝えている。 ・個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	◇技能向上の取り組み ◇安全管理への配慮 ◇学習カード ◇定期考査 ◇発表・発言 ◇学習カード
主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に組もうとしている。 ・健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	◇話を聞く姿勢・態度 ◇定期考査 ◇学習カード ◇授業観察

【授業の進め方と学習のポイント】

- ◇基礎・基本を大切にして、関心・意欲を高める。
- ◇基礎体力の向上と各種の運動技能の習得を図る。
- ◇準備や片付けをみんなで協力して行う態度を養う。
- ◇自己の能力を分析し、練習を工夫してその能力を高めることができる。
- ◇習熟度別の授業形態を工夫する。

【家庭学習の進め方】

日頃から新聞やテレビ、インターネットなどでスポーツニュースに親しむ。特にそのシーズンのスポーツや全国的、世界的に活躍している人物や競技を調べると良い。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知・技	思・判・表	人間性
学習 の 基盤	言 語 能 力	1	2	3
	情 報 活 用 能 力	4	5	6
	問題発見・解決能力	7	⑧	9

単 元 名	器械運動（マット）
実 施 月	1 1 月
実 施 学 年	1 年
授 業 者	市川 田熊
内 容	自分の実技を行っている映像から課題を見付け解決し技術の向上を図る

【年間指導計画（年間 105 時間）】 < 1 年 >

月	単 元 名	主に学習すること	学習のねらい
4 月	⑤ * 集団行動 体力測定 ② 集団行動訓練	・ 集合隊形、基本姿勢 ・ 準備運動、ラジオ体操 ・ 体力テスト測定 ・ 集団行動	・ 体育活動を行う集団としての素速さや合理性を高める ・ 柏宿泊を通して集団行動を学ぶ ・ 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる
5 月	⑥ * 体育大会種目練習 * 陸上競技	・ 短距離走、ハードル走、	・ 自己の能力の向上を目指し努力する
6 月	⑥ * 体育大会種目練習 ⑩ * 球技 1・走り高跳び	・ バスケットボール、走り高跳び ・ 種目の中での効率的な動き	・ 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる・個人的技能や集団技能を練習やゲームの中で仲間と協力して高める。
7 月	⑥ * ボッチャ ⑩ * 水泳【A】	・ 基本技能の習得 ・ 戦略的知識の習得 ・ 泳法（クロール、平泳ぎ）	・ 自己やチームの特徴に応じて、作戦を立て、役割に応じた活動をする。 ・ 水に親しみ楽しく泳ぎ、自己の能力に適した課題を考えて練習する ・ 記録測定では自己の記録の向上を目指し努力する。 ・ 自己の能力に適した課題をもって練習し、自己の記録を向上させる
	⑤ * 健康な生活と疾病の予防①	・ 健康の成り立ちと疾病の発生要因、運動と健康、食生活と健康、休養・睡眠と健康、調和のとれた生活	・ 健康の成り立ちについて始末、疾病はどのような要因で起こるか知る。健康に関する解決法を考え、判断し表現する。
9 月	③ * 運動やスポーツの多様性	・ スポーツの多様性、必要性、多様な楽しみ方	・ スポーツの多様性、必要性、多様な関わり方を知る。
10 月	⑩ * ダンス【C】	・ 創作ダンス	・ 自己の能力に適した課題を設定して集団としての表現をしていく。
11 月	⑩ * 器械運動【B】 (マット、跳び箱運動) 球技 2	・ 基本技能の習得 ・ 効率的な動き ・ 技の組み合わせ、連続技	・ 基本的な技能を身に付けさせる。 ・ 自己の能力に適した課題を設定して楽しく安全に協力して練習に取り組む。
12 月	⑫ * 球技 3・4 ⑩ 心身の機能の発達と心の健康	・ バレーボール ・ アルティメット ・ ハンドボール ・ サッカー ・ 体の発育・発達、呼吸器・循環器の発育・発達等	・ 個人的技能や集団技能を練習やゲームの中で仲間と協力して高める ・ 基本技能を高めるとともに、パスを効率よく使いチームとして多彩な攻めができるようになる。 ・ 体の機能は、どのように発育・発達するか、また、心の健康を保つ方法を知る。
1 月 2 月 3 月	⑭ * 武道（柔道） * 陸上競技	・ 受身、固め技、投げ技 ・ 長距離走 ペース走、走り方、呼吸法	・ 基本的な技能を身に付けさせる。 ・ 自己の能力に適した課題を設定して楽しく安全に協力して練習に取り組む。 ・ 基本技能、安全を重視した試合をする ・ 個人的技能身に付け練習や記録測定の中で仲間と協力してできる

教 科	技術科	学 年	1 年	文責：内田 哲博
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

◇技術・家庭「技術分野」（開隆堂）	◇地下1階 木工室・金工室
◇材料と加工の技術	◇情報の技術

【評価の観点と方法】

観 点	評価規準	評価方法
知識・技能	材料と加工、情報の技術について理解しているとともに、それらに関わる技能を身に付けている。	◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇定期考査
思考・判断・表現	材料と加工、情報の技術について、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇小テスト ◇定期考査
主体的に学習に取り組む態度	材料と加工、情報の技術を活用し、よりよい生活の社会や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	◇作品 ◇課題等提出物内容

【授業の進め方と学習のポイント】

- 座学での内容を踏まえて、製作・作業実習に入るので、授業内容をよく理解し、不明な点・疑問な点はその日のうちに解決すること。
- 作業は安全を第一として参加すること。
- 作業は座学の内容を十分復習をして、作業の目的をはっきりと認識して取り組むこと。
- 提出物・作業は期限を守ること。
- 定期考査の前には、プリントをよく復習すること。

【家庭学習の進め方】

一番大切なことは、授業内容の理解です。プリントの内容や授業中の解説を復習するとともに、新たな言葉は調べ学習なども行い理解を深めることが大切です。
図面や専門用語の多いことが特徴の教科です。特殊な言い回しや用語を覚えると先生との授業中の会話に無駄がなくなります。
思考・判断・表現についての力を身につけるためには、社会での技術の活用を知ること大切です。授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をしましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

【授業計画】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知 技	思 判 表	人 間 性
学習 の 基盤	言 語 能 力			
	情 報 活 用 能 力		○	
	問題発見・解決能力			

単 元 名	材料加工の技術 6. 製図
実 施 月	5 月
実施学年	1 年
授 業 者	内田 哲博
内 容	図から寸法や形の情報を読み取り、それを利用して別の図法で同じ物体を製図する。

【年間指導計画（技術 3 5 時間）】学習の基盤となる資質・能力の育成を意識した授業＝学習基盤

●1年生

時間	指導項目（単元名）	学習内容	学習のねらい
1	生活や社会における技術の役割	技術を見つけよう	■技術を学ぶ目的の理解 ■授業の受け方
2		技術と私たちの生活	■技術が生活の向上や産業の発展に影響を及ぼしていることを知る。 ■持続可能な社会の必要性に気づき、技術とのかかわりについて知る。
3	A 材料と加工の技術	材料と加工の技術の原理・法則と仕組み	■身の回りにある製品に使われている材料の種類を知る。 ■木材・金属・プラスチック、それぞれの特徴を知る ■材料と環境とのかかわりを知り、材料の使い方について考える。
4			
5		等角図法 第三角法による正投影図法	■物体を等角図でかき表すことができる。 ■物体を第三角法でかき表すことができる。
6			
7		図のかきかえ <u>学習基盤</u>	■等角図を読み取り、別の図法に描き直すことができる。
8	材料と加工の技術の原理・法則と仕組み 実習：練習題材（ペン立ての製作）	安全指導 けがき	■安全に作業を行うための視点や確認事項を知る。 ■木取りの方法や木取り図を知る。 ■さしがねの使用法を理解し、材料にけがきができる。
9		切断	■正しい両刃のこぎりの使用法を理解し、材料を切断することができる。
10		部品加工	■やすり、ベルトサンダ、糸のこ盤、電動ドリルの使用法を理解し、断面の処理や下穴空けなど部品加工の作業ができる。
11		組み立て	■げんのう、万力の使用法を理解し、組み立て作業ができる。
12		仕上げ	■紙やすりの使用法と安全点検のポイントを理解し、適切な仕上げおよび点検ができる。
13			
14	材料と加工の技術による 問題解決 実習：本題材（マルチラックの製作）	問題解決の視点	■材料と加工の技術による問題解決の手順や視点、アイデアを考えることができる。
15		問題の発見と課題の設定	■生活の中から、身の回りの問題を見いだして、課題を設定することができる。
16		立体模型および製作図の作成	■設定した課題に基づき、立体模型を試作することができる。 ■立体模型をもとに、製作図を描くことができる。
17		けがき	■製作図をもとに木取り図を作成し、材料にけがきをすることができる。
18			
19		切断	■適切な工具・機械を用いて切断加工を行うことができる。
20			
21		部品加工	■適切な工具・機械を用いて部品加工を行うことができる。
22			
23			
24			

25			組み立て	■適切な工具・機械を用いて組み立てを行うことができる。
26			仕上げ	■適切な工具を用いて仕上げができるとともに、適切な視点に基づいた点検ができる。
27				
28		これからの材料と加工の技術	・学習のふりかえり ・材料と加工の技術と私たちの未来	■これまでの学習をふりかえり、実習の改善点等をまとめることができる。 ■よりよい生活を実現する材料と加工の技術について自分なりに考え、意見をまとめることができる。
29	D 情報 の 技 術	情報の技術の原理・法則と仕組み	・情報の技術とは何だろう ・コンピュータの構成 ・情報のデジタル化	■生活や社会、産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術が利用されていることを知る。 ■コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアについてまとめることができる。 ■コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知る。
30			情報のデジタル化	■コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知る。 ■情報のデジタル化の方法をまとめることができる。
31			情報通信ネットワークの仕組み	■情報通信ネットワークの仕組みについてまとめることができる。 ■情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて知る。
32		情報の技術の原理・法則と仕組み	ネットワークを安全に利用するための情報モラル	■情報の特性について考え、情報が社会に与える影響について知る。 ■望ましい情報社会のための態度について考えることができる。
33		実習：インターネット上に公開する情報について考える	安全に利用するための情報セキュリティ	■情報セキュリティを実現するための3つの要素を知る。 ■安全にネットワークを利用するための心がまえや注意点をまとめることができる。
34			著作権	■知的財産権の基本と種類について知る。 ■著作権と著作物の利用方法について知る。
35			情報モラルやセキュリティを考えよう	■SNSやWebサイトに掲載されている情報を確認し、危険性を見つけることができる。 ■望ましい情報発信の方法について提案することができる。

※学校行事、授業の進捗状況、材料の入荷状況により、学習内容の順番を入れ替えることがあります。

教科	家庭科	学年	1 年	文責：大島久美子
----	-----	----	-----	----------

【教科の目標】

生活についての理解を深め、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技術を身に付ける。実践的・体験的な活動を通して、課題を見つけて解決したり、考察したことを論理的に表現したりして、生涯を見通して課題を解決する力を身につける。家族や地域の人々の関わりを考え、協働し、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫する実践的な態度を身につける。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

◇技術・家庭 家庭分野（東京書籍）、プリント、ノート
◇各教室、被服室、調理室 ◇一斉授業、グループ学習指導

【評価の観点と資料】

観点	評価基準	評価資料
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技術を身に付けている。	定期考査・作品・課題等提出物内容
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	プリント・定期考査・課題等提出物内容
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	ノート・プリント・製作の進捗状況及び態度・課題等提出物内容

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業は、板書を写すだけではなく、説明をよく聞き、新しい知識をメモしたり、自分の意見を書き足したりして知識・理解を深めること。
- 一斉授業やグループ学習では、発表や発言に進んで参加すること。
- 実習などの活動では、班員と協力して計画的に行うこと。
- 実習などの活動では、教員の指示や被服室、調理室の使用方法に従い安全に作業すること。
- 提出物の期限を守ること。忘れ物をしないこと。
- 実習や授業のねらいを理解し、生活に活用させること。
- 定期考査前は、言葉を暗記するだけでなく、自分の家庭生活を振り返り生活と照らし合わせて思考すること。

【家庭学習の進め方】

- ① 課題は丁寧にに取り組むこと。その時の発見・気づきを大切にすること。
- ② 授業で習ったこと、自分で実践できることを家庭で積極的に行い復習すること。
- ③ 授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をすること。また、情報を生活に活用させること。
- ④ 社会や地域・家庭生活について関心をもち、気になったことはメモをとり調べる習慣をつけること。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

【授業計画】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知 技	思 判 表	人間性
学習 の 基盤	言 語 能 力			
	情 報 活 用 能 力			
	問題発見・解決能力		○	

単 元 名	お弁当包みの製作
実 施 月	5～7 月
実施学年	1 年
授 業 者	大島久美子
内 容	上手に縫うために何を意識するのか考えながら、製作する。

【年間指導計画（年間 35 時間）】

週	単元名	主に学習すること	学習のねらい
1	A 家族・家庭生活 自分の成長と家族・家庭生活	ガイダンス 1. 自立と共生を目指そう 2. 私の生活と家族・家庭	自分の成長と家族や家庭生活との関わりを理解している。家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気づく。
2	B 衣食住の生活	1. 衣服の役割	衣服と社会の関わりについて理解している。
3	衣服の選択と手入れ①	2. 私らしさと T.P.O	個性を生かす着用について理解し、自分らしい着方を考え工夫している。
4		3. 日本の衣服の文化	日本の衣服文化を理解し、継承する大切さに気づく。和服と洋服の構成や着方の違いについて理解できる。
5	B 生活を豊かにするために	1. 作って楽しい布製品	製作に適した材料や縫い方、用具の安全な取り扱い方について理解できる。 手縫い、ミシン縫い、アイロンなど、製作に必要な基礎的スキルを身につけることができる。
6		2. お弁当包みの製作	
7			
8			
9	学習基盤		
10			
11			
12			
13	B 衣服の選択と手入れ②	1. 衣服の洗濯と保管	衣服の材料や状態に応じた手入れ（洗濯と保管）ができる。
14		2. 衣服計画と必要な衣服の選択	既製服の選択と購入のために必要な情報について理解できる。 目的に応じた購入方法を考え、表示を読み取って適切に選択できる。
15			
16	B 持続可能な衣生活	1. 持続可能な衣生活を目指して	持続可能な衣生活を目指して、課題と解決方法を考え工夫できる。
17	B 食事の役割と	1. 食事の役割	生活の中で食事の役割について理解できる。
18	中学生の栄養の	2. わたしたちの食生活	健康に良い食習慣について理解できる。
19	特徴	3. 栄養素の種類と働き	栄養素の種類と働きについて理解できる。
20		4. 中学生に必要な栄養	中学生に必要な栄養について理解できる。
21	B 中学生に必要な栄養素を満たす食事	1. 食品に含まれる栄養素	身近な食品の栄養的特徴について理解できる。
22		2. 6 つの食品群と食品群別摂取量の目安	6 つの食品群の特徴と食品の種類と概要について理解できる。
23	B 日常食の調理	1. 調理の基礎・衛生と安全	安全と衛生について理解し、適切にできる。
24		2. 野菜、いもの調理	野菜、いもの調理上の性質について理解し、工夫して調理できる。
25		3. 魚、肉の調理	魚、肉の調理上の性質について理解し、工夫して調理できる。
26		4. 和食の調理	日本の食文化を理解し、和食の調理ができる。
27			
28			
29			
30	B 中学生に必要な栄養素を満たす食事	1. バランスの良い献立作り	中学生に必要な食品の種類と概量を踏まえ、工夫して献立を作成できる。
31	B 食品の選択と購入	1. 生鮮食品の特徴	生鮮食品の特徴がわかる。目的に応じて生鮮食品を確かな目で選択・保存できる。
32		2. 加工食品の特徴	加工食品の特徴がわかる。目的に応じて加工食品を確かな目で選択できる。
33			
34		3. 食の保存と食中毒の防止	食品の適切で安全な扱い方について理解できる。
35	B 生活の課題と実践	生活の課題と実践	生活の中から問題を見だし、課題を設定し、その解決に向けて計画を立案、実践することができる。